

# 第22回日本ボランティア学習学会 旭川大会シンポジウム

日時 2019年11月16日(土) 15:30~17:00

テーマ 「人がつなく、地域をつなくボランティア学習」

パネリスト 近藤 聖<sup>さとし</sup>氏(札幌大学ウレシパクラブ)

瓶子 遼太<sup>へいし</sup>氏(旭川大学経済学部江口ゼミナール)

真島 康誉<sup>よしだか</sup>氏(北海道大学農学部農業経済学科)

コーディネーター

石浦 真依氏・細谷 里沙氏

(北海道教育大学旭川校 ボランティアサークル「ありんこくらぶ」)

## 【概要】

### 1.各パネリストの活動報告

#### ○近藤 聖氏

大学入学の時に「ウレシパクラブ」を知り、初めてアイヌ文化に触れ、文化継承の意義を知った。さらに、その担い手になるべくロシア連邦のサハ共和国に留学し、アイヌの楽器や衣服・言語について学びを深めることができた。

北海道で生まれ育った和人である自分は大学入学までアイヌ文化に触れることがなかった。今回は「大学教育におけるアイヌ文化の担い手としての現状」を知っていただきたい。今の活動は地域の方々、企業の支援によっても支えられているので、使命感を持って文化継承を次世代にも伝えていきたい。

4年間の学習を通して自分自身のアイデンティティについても意識するようになり、視野を広げることができた。

#### ○瓶子 遼太氏

旭川大学経済学部江口ゼミナールのラーメンプロジェクトで実地的な経営学を学んでいる。「町の元気づくり」をテーマに主に3つの取組みをしている。

1点目は江口ゼミラーメンの出店(年間4144杯の実績)で地元食材の活用(原価計算や原材料の仕入れ、オリジナルラーメンの試作、販売戦略)

2点目は市内のラーメン店250店舗の取材に基づいたガイドブックの作成(「今日もあなたの食べたいラーメンここにある」を出版 100店舗を掲載)

3点目は地元の高校生たちによる「ラーメン甲子園」の企画・運営(高校への参加の呼びかけ、市内店舗協力によるラーメンづくり講習、イベントの運営やこだわりの店舗作りなどの企画提案など様々な活動によって実現)

地域で体験的に学ぶことで、地域の魅力を再発見している、卒業後の進路にもその

学びが生きていくと思う。

○真島 康誉氏

北海道教育委員会からの派遣で学習支援のボランティアで小中学校生の学習支援活動に参加した。また、大学内では学生ボランティア活動相談室が設置されていて、相談員のサポートとしてボランティア活動の推進のための活動にも携わっている。

「学校サポーター派遣事業」のサポーターとして学校間の学力格差の解消を目指す活動に参加した。小中学生に関わり支援により子ども達の意欲が感じられるなどの効果を実感している。分かりやすく教えることの難しさなどを知ることができた。

ボランティア活動の仲間との出会いやいろいろな人々との関わりそのものが活動の魅力である。

## 2. まとめ（感想）

三者がそれぞれ自分の興味や関心、課題意識の従って地域や学校の課題解決のための活動に関わっていて、体験的な活動を通じて自己の成長を実感し、さらには地域や地域の人たちとの関わりによって学びを深める活動をしている。また、大学生たちの学びが地域のつながりや活性化にも影響をする、ということが伝わるシンポジウムであった。（大坪）

